

今月のトピックス

- インフルエンザが急増しています。
- ツツガムシ病の報告がありました。
- 熱帯熱マラリアの報告がありました。
- 感染性胃腸炎は、ピークを過ぎましたが、まだ集団発生が見られています。

全数把握の対象

- 1 腸管出血性大腸菌感染症: 1 月は 27 日現在で 1 例の報告がありました。感染経路については不明です。腸管出血性大腸菌感染症の発生時の対応については、横浜市衛生研究所 HP をご参考ください。
http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/idsc/rinji/infoc_o157_guide.html
- 2 ツツガムシ病: 1 月は 27 日現在で 1 例の報告がありました。ツツガムシ病は、*Orientia tsutsugamushi* によるリケッチア症で、日本ではアカツツガムシ、タテツツガムシ、フトゲツツガムシの 3 種が媒介します。卵から孵化した幼虫は、一生に一度だけ哺乳動物に吸着し組織液を吸います。吸着時間は 1 ~ 2 日で、菌の動物への移行にはおおよそ 6 時間以上が必要です。ツツガムシのリケッチアの保菌率は 0.1 ~ 3% である。タテツツガムシ、フトゲツツガムシは秋から初冬に孵化するので、この時期に関東 ~ 九州地方に多く発生が見られます。フトゲツツガムシは、寒冷に抵抗性があり、越冬後融雪後活動後再開するので、東北・北陸地方では春 ~ 初夏にも発生が見られます。発熱、刺し口、発疹を主要 3 徴候としますが、確定診断は血清診断で行われます。血清型は、Kato, Karp, Gilliam の標準型の他に Kuroki, Kawasaki などもあります。ツツガムシ病については、感染症研究所 HP をご参考ください。
http://idsc.nih.go.jp/idwr/kansen/k02_g1/k02_13/k02_13.html
- 3 マラリア: 1 月は 27 日現在で 1 例の報告がありました。熱帯熱マラリアでした。エチオピアでの感染とと思われます。熱帯熱、三日熱、卵形、四日熱の 4 種類に分かれますが、中でも熱帯熱マラリアは短期間で重症ないし死亡の危険があります。診断は、血液塗抹標本をギムザ染色し、光学顕微鏡で検査する方法が一般的です。治療薬については、熱帯病治療薬研究班 HP をご参考ください。
<http://www.med.miyazaki-u.ac.jp/parasitology/orphan/index.html>
マラリアについては、国立感染症研究所 HP をご参考ください。
http://idsc.nih.go.jp/idwr/kansen/k05/k05_04/k05_04.html
- 4 アメーバ赤痢: 1 月は 27 日現在で 4 例の報告がありました。
- 5 急性脳炎: 1 月は 27 日現在で 2 例の報告がありました。4 歳と 7 歳で、インフルエンザの A 型によるものでした。前シーズンのインフルエンザ A(H1N1)pdm による急性脳炎は、転帰を見ると、死亡 6%、後遺症 12%、治癒軽快が 82% でした。国立感染症研究所 HP 参考 <http://idsc.nih.go.jp/disease/influenza/idwr10week41.html> インフルエンザは、殆どが一過性の感染ですが、いったん急性脳炎を発症すると非常に厳しい予後となります。今後もインフルエンザによる急性脳炎について、注意をしていく必要があります。
- 6 バンコマイシン耐性腸球菌感染症: 1 月は 27 日現在で 2 例の報告がありました。
- 7 麻疹: 1 月は 27 日現在の報告で 3 例の報告がありました。うち 2 例が成人例です。
- 8 劇症型溶血性レンサ球菌感染症 12 月の追加報告が 2 例ありました。
- 9 クロイツフェルト・ヤコブ病: 12 月の追加報告が 1 例ありました。

定点把握の対象

平成 22 年 12 月 20 日から平成 23 年 1 月 23 日まで(平成 22 年第 51 週から平成 23 年第 3 週まで、ただし、基幹定点、性感染症については平成 22 年 12 月分の横浜市感染症発生動向評価を、標記委員会において行いましたのでお知らせします。

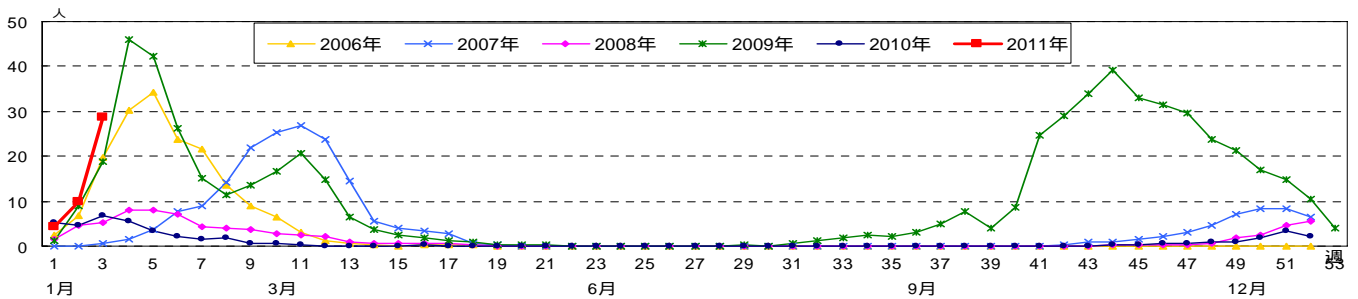
平成 22 年及び 23 年 週 - 月日対照表

第 51 週	12 月 20 ~ 26 日
第 52 週	12 月 27 ~ 1 月 2 日
第 1 週	1 月 3 ~ 9 日
第 2 週	1 月 10 ~ 16 日
第 3 週	1 月 17 ~ 23 日

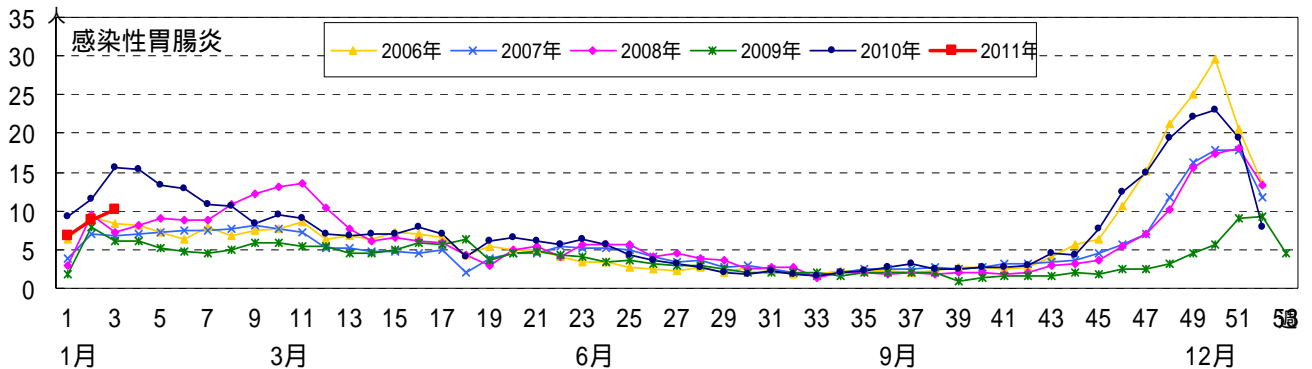
1 **インフルエンザ**: 市内の第 3 週は定点当たり 28.62 でした。流行のめやすである 1 を超えたのが第 50 週。注意報域を超えたのが、第 2 週。第 3 週は第 2 週の約 3 倍と、感染の広がりにも勢い

が見られます。行政区別では、磯子区 42.86、瀬谷区 39.86、神奈川区 36.33、泉区 35.29、緑区 34.71、都筑区 34.25、栄区 30.00 と 7 区が警報域です。中区の 5.75 を除く残りの 10 区もすべて注意報域です。神奈川県 27.57、東京都 24.54、全国では 26.41 でした。全国では宮崎県 64.49 を筆頭に、沖縄県 63.17 と大きな流行が見られています。関東でも群馬県 36.41、千葉県 36.38、埼玉県 34.29 と警報域で、市内でもこれからが流行の本番となると思われます。市内でのウイルスの変異調査の結果では、今年のワクチンは有効と思われます。

市内迅速キットの内訳は A 型が 96% と優勢ですが、B 型も 4% 認められ、18 区中 16 区で報告されています。市内の病原体定点からの検出は、A 新型 21 件、A 香港 7 件、B 型 2 件です。現在市内では 3 つのタイプのインフルエンザウイルスが循環していると思われます。



2 **感染性胃腸炎**: 市内の第 3 週は定点当たり 10.08 でした。第 50 週の 22.99 のピーク時は警報域でしたが、第 52 週には 7.90 と警報域を脱しています。行政区別では神奈川区 25.50 が警報域です。神奈川県 9.47、東京都 10.68、全国 9.16 と、全国的にもピークは脱していますが、市内では保育園や高齢者施設での集団も未だ報告されていますので、引き続き注意が必要な疾患です。



3 **性感染症**: 性感染症は、産婦人科系の 10 定点、および泌尿器科・皮膚科系の 17 定点からの報告に基づき、1 か月単位で集計されています。

12 月は、11 月に比べて全体としては大きな変化はありません。性器クラミジア感染症は、男性 19 例、女性 10 例でした。性器ヘルペスウイルス感染症は男性 8 例女性 11 例です。尖圭コンジローマは男性 5 例女性 3 例、淋菌感染症は男性 6 例女性 1 例でした。

4 **基幹定点**: 12 月はメチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症は 12 例の報告がありました。平成 22 年の年間では 143 例でした。ペニシリン耐性肺炎球菌感染症は 12 月では 0 例。年間では 7 例。薬剤耐性緑膿菌感染症は、12 月は 0 例。年間でも 0 例でした。

この感染症発生動向調査委員会報告とデータの詳細については、下記のホームページに掲載されていますので、他の記事と合わせてご覧ください。
横浜市衛生研究所ホームページアドレス URL:<http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/>